

第7回阿波おどり未来へつなぐ実行委員会 議事録

日時：令和5年10月31日（火） 10時30分～12時00分

場所：シビックセンターさくらホール（徳島市元町1丁目24番地アミコビル4階）

出席者：委員22名（内オンライン参加4名）

オブザーバー2名（内オンライン参加1名）

【開会】

（事務局）

- ・新たな委員の紹介

【議事】

（事務局）

第1号議案 「収支決算見込みについて」

1.収支決算見込みについて

(1) 総括表

- ・2023阿波おどり事業における収入については、新型コロナウイルス感染症の感染症法での位置付けが5類に引き下げられたことに伴う観光需要の回復により入場料収入が、前年度と比較して約5,600万円増と大幅な増収となった。また、その他の収入においては、県内外の多くの企業・団体の皆様から前年度を上回る広告や協賛によるご支援を頂いたことにより、前年度と比較して約1,400万円増の増収となった。その結果、収入全体では前年度を約9,300万円上回る2億6,694万5千円の収入となった。
- ・支出については、人件費・物価高騰等により、経費は前年度を大きく上回るものの、様々な工夫や見直しなどにより削減に努めた結果、2億4,295万8千円の支出となった。なお、この支出額には修繕が必要となる栈敷ベンチシート修繕費や提灯の取替修繕費、提灯照明配線の取替修繕費の概算見込み額を含んでいる。
- ・この結果、2023阿波おどり事業の収支決算見込みは、税引後約1,600万円の黒字見込みとなった。

(2) 有料演舞場等の会場別収支見込

- ・あわぎんホールで開催した選抜阿波おどり、有料の藍場浜、南内町の各演舞場については収支差引としてはプラスとなった。前夜祭についてはチケット販売が他の会場ほど伸びず、約277万円の赤字となっているが、昨年と比較しチケット販売は上向きとなり、660万円ほど赤字幅は圧縮された。団体チケット販売の前倒しや前夜祭に特化した広告効果があったものと思われる。

2.チケット販売について

(1) チケット販売結果

- ・15日の中止を除く全ての日において、昨年と比較し販売枚数、販売率ともに上回った。
なお、中止となった15日の各公演の払戻の状況については、選抜阿波おどりは92.6%、有料演舞場は98.9%の払戻を行っている。

(2) 演舞場ごとに見た販売状況

- ・販売率は南内町演舞場が高くなっているが、販売枚数は座席数の多い藍場浜演舞場の方が多。

(3) 公演日別に見た販売数

- ・初日の12日が土曜日、13日が日曜日ということもあり、14日・15日と比較して販売率が高くなっている。

(4) 1部と2部の販売状況

- ・12日1部、2部および13日1部については藍場浜演舞場、南内町演舞場ともに100%の販売となっている。また、傾向として2部では総おどりが行われる南内町演舞場の販売率が非常に高い結果となっており、阿波おどり振興協会の総おどりというコンテンツが際立っていることが改めて分かる結果となった。

第2号議案 「阿波おどり運営安定化補助金の戻入れについて」

- ・2023阿波おどりでは徳島市から例年の阿波おどり運営費補助2,000万円に加え、今年度においては新型コロナウイルス感染症の状況が不明確だったことに加え、人件費や物価高騰等のリスク対応を支援し、運営の安定化を図ることを目的として、新たに阿波おどり運営安定化補助として予算化された3,000万円の内、1,000万円の補助金を受けていた。今回約1,600万円の黒字見込みとなったため、今年度については、新たに受けた阿波おどり運営安定化補助分の1,000万円を徳島市へ戻入れしたいと考えている。

【報告事項】

1.阿波おどり未来支援委員会からの支援について

- ・8月14日2部の藍場浜演舞場において、阿波おどり未来支援委員会がインフルエンサー連の参加等を企画するなどご支援をいただいた。具体的にご支援の内容を表にお示ししている。未来支援委員会からは総額約700万円のご支援をいただいた。

2.YouTube 配信

- ・徳島県ケーブルテレビネットワーク機構から映像の提供を受け、8月12日から14日の間、阿波おどりの模様をYouTubeにてライブ配信を行った。再生回数は昨年と比較して

大幅に増加しており、コロナ後の阿波おどりへの関心の高さが見てとれる結果となっている。

【その他】

- ・チケット価格変動制を試験導入した結果について運用を行っているダイナミックプラス社（DP社）から報告を受けている。今回試験導入した公演については、有料演舞場16公演中10公演、会場は藍場浜、南内町の両演舞場。今回の価格変動制の導入については、7月1日からの一般販売の10日後、11日から変動を開始している。変動単位は100円単位で行った。その結果の円グラフでは、今回値上げに作用した部分が48.8%、定価販売が36.2%、値下げに動いた部分が15.0%となっている。
- ・DP社試算の収益効果、枚数効果について、試験導入した結果、全公演の合計で収益効果は265万円の増収、枚数効果は280枚増加と報告を受けている。
- ・DP社からの2024年に向けての提案として、先行販売ならびに7月1日からの一般販売日にチケットが多く販売されており、販売が増えている部分について価格変動制を導入することで、より効果が期待できるという提案を受けている。事務局としても今回の試験導入について、一定の効果がみられたと判断しているので、来年に向け、導入を開始する時期などを総合的に検討してまいりたい。

（京野委員）

- ・臨時駐車場収入が上がっているが、去年度より値段が上がっているのではないか。
- ・広告、協賛金の内訳を教えてください。
- ・公式グッズの製作費用はどれほどかかっているのか。収入はどれほどあったのか。
- ・チケットの払戻金額を教えてください。

（事務局）

- ・臨時駐車場の収入については、利用者数が昨年に比べ大幅に増えたため、収入が増えている。
- ・協賛金の内訳については、基本協賛が870万円、見物ガイド680万円、うちわ1,314万円、スタッフTシャツ350万円、デジタルサイネージ協賛90万円、清掃ボランティアに対する協賛90万円の合計3,394万円の協賛を頂戴している。
- ・公式グッズの制作費については584万5千円、売上は240万4千円。14日の雨天ならびに15日の中止により、最後の方は想定より売上げが伸びなかった。
- ・15日の払戻金額は2,312万9千円払戻している。

（京野委員）

- ・公演日別に見た販売数で、14・15日は天候も悪く、平日ということもあるが、販売率が少ない。ホテルや旅館の予約も少なかったのか、今後の課題として分かれば教えてほしい。

(森浦委員)

- ・15日については多くのキャンセルがあった。14日もある程度あったと思う。統計を取っていないのではっきりとは分からないが、数字的には大分減ったと思う。事前ではほとんど満室だったが、台風の影響でキャンセルが出た。

(事務局)

- ・当日券は地元の方に多くご購入いただいていると思っている。そういったところから、やはり天気が悪くなると当日券の売れ行きが鈍くなることもあると思う。

(山田委員)

- ・阿波おどりに対してこれまで問題点が色々あり、第三者からなる委員会が設置され、阿波おどりに対するご提言をいただいた。その中で運営を安定化させる必要があり、自治体である徳島市も協力していくべきだという提言があったので、運営の安定化補助として3,000万が予算化されたと認識している。
- ・補助金収入として3,000万、安定化補助として3,000万と、同じ額なので誤解されやすいかもしれない。無料演舞場やシャトルバスなどに充てられる、通常の2,000万円の補助は今まで通りに交付され、プラス3,000万円が運営安定化補助として予算が計上された内1,000万円を今年の運営に充てた認識でよろしいか。

(事務局)

- ・その通り。

(京野委員)

- ・藍場浜13日2部の販売状況が58%しかない、そこだけ極端に減っている要因が想像できるなら教えていただきたい。

(事務局)

- ・藍場浜演舞場の座席数は南内町演舞場より多く、率だと低く出てしまうが、枚数としては一定の枚数が販売できている。ただ、やはり2部の南内町は総おどりが際立っているので、グラフ化すると南内町の2部の強みが出てきていると思う。今後色々工夫していく中で見せ方や新たなコンテンツなども、踊り連の方々のご意見も頂戴しながら今後検討していく。

(弘田実行委員長代行)

- ・議案第1号、第2号について議決を取る。事務局案に賛成の方は挙手をお願いします。

(賛成多数)

(弘田実行委員長代行)

- ・賛成多数なので事務局案で進めさせていただく。
- ・9月4日の実行委員会でお話があった、SNSに実行委員会の名簿を掲載した件で、徳島市議小野議員を再度実行委員会に呼んでほしいとのことだった。再度出席依頼を出したが、本人からは欠席のご連絡をいただいている。

(杉原委員)

- ・前回の会議で少し出たが、県の関与をどうしていくのか。県の方あるいは知事をお呼びして見解を伺いたい。

(オブザーバー・徳島県観光政策課 岸課長)

- ・県の関与について、色々議論はあると思うが、徳島市阿波おどりは徳島市の祭りであると認識している。しかしながら徳島市は県都であるので、開催自治体として安全性の確保など何らかの形で県としても協力をする必要はあると考えている。
- ・今はオブザーバーという立場だが、委員になるかどうかについてはわたしの一存で決められる話ではないので、ご提案があったことについては県庁内で共有させていただく。

(山田委員)

- ・阿波おどりの発祥についてはまだ解明されていないが、蜂須賀家正公が1585年に徳島に赴任され行政に携わり、築城に合わせて無礼講で行った起源説も消えたわけではなく、県都徳島市における阿波おどりの意味合いは他の市町村とは違うと言っても過言ではないと思う。家正公=今の県知事という位置付けだと思うので、1年に1回の大イベントである県都徳島市の阿波おどりを後藤田知事に実行委員長として仕切っていただき、県も市と共に力を合わせて一大イベントを成功させていくというお考えを持っていただきたい。もし皆さん方が賛成であれば、実行委員会の総意として知事に求めている。他の市町村との関わりなど行政的な部分がネックになってくるかもしれないが、そこを1つ飛び越えて1枚岩となって、本家本元の聖地である徳島の阿波おどりを皆さん方と一緒にやっていきたいと思っているので、ぜひ県のお力添えをいただきたい。

(西岡委員)

- ・徳島市の阿波おどりに県にもご協力いただきたいというお話だが、次年度に向けて今回の反省を活かしたプロモーション等を考えていかないといけない時期にきている。徳島の魅力を発信するという意味でも、阿波おどりというコンテンツは避けて通れないと思う。世界に誇れるコンテンツだと思うので、徳島市以外の市町村の方、実行委員の方、県の方が中心となり、関係各位の方にご協力いただき早急に進めていくべきだと思う。ざっくばらんでも構わないので、意見交換会などを早急に行っていただければ、次年度もより素晴らしいものにしていけると思うので、そのあたりもご検討いただきたい。

(オブザーバー・徳島県観光政策課 岸課長)

- ・県だけでなく様々な阿波おどり関係者で来年度の阿波おどりを協力して盛り上げていただきたいというご意見をいただいたと思う。阿波おどりは徳島の宝、キラークンテンツなので、県が関われる方法でしっかりと協力していきたい。
- ・実行委員会の場合とはまた別だが、県都徳島市でハード面、ソフト面の様々な課題を議論してより良くしていこうというワーキンググループも立ち上がっており、ソフトコンテンツには阿波おどりも含まれてくる。広報など何かしらの新しいコンテンツをより磨いて作っていくところに関しても、市とも県で協議しながらご協力できるところはしていきたいと思っている。

(京野委員)

- ・15日は開催を中止したが、県の方では踊れる場を設けていた。中止しても、実施しても我々に批判があつたりする中で、非常に難しい判断をしている。そういった判断を共同でやっていかないかということをおっしゃっていると思う。来年に向けて対策しなければいけないことを含めて決めていくことがあると思うので、どの段階で県が実行委員会へ参画する返事をもらえるのか教えていただきたい。

(山田委員)

- ・オブザーバーの県の職員が回答するのは無理ではないか。それよりも委員さん方のご意見の採択を行い、実行委員会として要望するのかを決めるのが先だと思う。実行委員会として意見を集約する必要があると思う。もしかしたら実行委員会に県はいらぬ、という意見もあるかもしれない。

(京野委員)

- ・委員になる決断はすぐにできないものなのか。

(弘田実行委員長代行)

- ・今すぐの返事は難しいと思う。県に関与していただきたいという要望を持って帰っていたら、まずは実行委員会の委員に参画していただけるかお返事をいただく。
- ・規約の中では実行委員の中から実行委員長を選ぶようになっているので、まずは県の方が実行委員会に入ってください必要がある。

(岡委員)

- ・実行委員長になってほしい、実行委員会に入ってほしいなどの以前の問題で、実行委員会や阿波おどりの内容が誤解されていると思う。知事の発言を聞いていると、実行委員会自体に責任の所在がはっきりしていない、安全性はどうなのか、公園は県の物なのでそっちで検証するなどのお話をされている。元々は県、警察、国交省も実行委員会に入っていた。

いろんな関係者が入って実行委員会を設置して動いていた。今はオブザーバーという形で県の課長がいる。県都とはいえ徳島市の阿波おどりだけに関わるわけにはいけないと思うが、まずは理解のための話し合いを行い、県から委員さんを出していただくとか、そのためにはこの組織をどう変えていったらいいかなどのお話をする場所を1度設けていただき、話に行くのが筋ではないか。この組織はもう少し開かれて、きちっと責任の負える、県協会、徳島新聞社の方も含めて全ての関わっている方が入ってくれる実行委員会にしていかないといけないが、今そうになっていないので修正する必要がある。まずは知事と直接ではなく県の関係者の方でもいいので、話し合いをする場所を持たせていただき、段階を踏んでそういうことをやったらいいと思う。

- ・小野さんの対応について、何回呼んでもこないのので何らかの形で実行委員会の意思表示をした方がいい。議会でSNSにアップした時点で実行委員会のメンバーを知らないなどと言っていた。我々2人は議会で議決を経て誰も反対なく出てきているので、そのこと知らないのはあり得ない。議場で彼自身が了解しているので、2人が入っていない名簿が今の名簿でないことは分かっているはず。出てこないなら小野さんに対して何らかの意思表示した方がいい。

(山田委員)

- ・来年の阿波おどりの開催に向け報道関係、県の方も含めて実行委員会への参画について再度お声がけしていただきたい。また、マスコミの方々にも参画していただきたいと思う。某報道関係の読者からのお便りでもマイナスだけでなく賛成の意見もあって然るべきであり、周りでもそういった意見をよく聞くが、一切報道にのらない。一部の人から意図的な報道をしていると言われる元ではないか。報道関係者の委員への参画も再度お願いしたい。

(弘田実行委員長代行)

- ・知事、県の関係者との座談会の際は調整していきたい。
- ・次年度に向けて色々課題もあるので、改めて実行委員会のメンバーに入れる協議をしていく。

(庄野委員)

- ・つなぐ阿呆とくしまは6~7割が飲食店経営者で、駅前もあるが秋田町、紺屋町、鷹匠町、栄町の経営者が多い。去年に比べ、今年は大分人が流れてきたが、紺屋町演舞場があったときを知っているメンバー多いので、どうにか再開できないかと言われている。委員の方々も色々な意見があると思う。我々も努力するので、ぜひ復活に向けて前向きに検討していただきたい。

(杉原委員)

- ・紺屋町を使うには近隣の方にお金を払わなければならないが、それは予算から出るので、結局税金から出るため出来ない。新町や商店街は一切お金をもらっていないが、今まで紺屋町には払っていたことが分かったので中止になった。紺屋町さんからは、お金をもらえなければ設置はダメだという答えしか帰ってこなかった。努力していただけるなら、無料で演舞場を設置させていただけるように説得をお願いしたい。
- ・ゴミの問題も言われていたが、ボランティアの方たちに回収していただいております、ゴミが多少残るのは残るが、今は解決していると私どもは認識している。
- ・飲食店の客数について、駅前近辺で今年の聞き込みをした情報では12・13の2日間は原市長がいた頃の阿波おどり並みに戻り、数字的には去年の倍来たが、残り2日間がこけたのでトントンと聞いている。
- ・演舞場ができてしまうと客が入らない、逆に邪魔になると言う店主さんもいらっしゃる。そのあたりの意見調整を可能であればお願いしたい。

(中村委員)

- ・これだけ長い間やってきて実行委員長がいないのは非常におかしい。オール徳島でやっていくべきなので県が入らないのはおかしい。入らないのであれば後出しじゃんけんでおかしな発言をしたらややこしい。また、阿波おどりを育ててきたのは徳島新聞に非常に大きな力があって、徳島新聞社や徳島県阿波踊り協会、警察、阿波銀行などの銀行が入っていないのもおかしい。未来につなぐということでこの会から改革を行い、新たな人選をしたらどうか。実行委員長がいない会が1年も続いていくのはおかしい。ぜひとも県には入っていただき、徳島を盛り上げていくことが重要であると思う。

(山田委員)

- ・紺屋町については、初めから今年は復活させる必要があると言っていた。栄町、鷹匠町、秋田町などの観光客の流れが経済効果に波及するのではないかと昨年の報道等でも流れていた。両国本町や新町などは過去出していないが、そのような中で紺屋町町内会の方が紺屋町演舞場を設置するには迷惑料を出すことを前提でお話されていた。オール徳島、みんなで盛り立ててやっていこうという中で紺屋町演舞場の設置は、経済効果、飲食店街のプラスになると思う。許可申請には、地元の町内会の協力、理解が示せなければ警察も動きづらいところがある。迷惑料なしで紺屋町演舞場を設置させて欲しいと説得してもらおうよう地域の人からもお願いしたが、最後までだめだと突っ張られた。仲之町から大工町を抜ける主要幹線を止めるか止めないかで警察、道路使用の関係は大きく変わってくる。一度紺屋町演舞場の設置を止めてしまうと中々元に戻らない可能性も考えなければならない。
- ・南内町にお住まいの方には、スタッフの誘導があっても車の駐車などまだまだ不自由をおかけしている。今回のように運営によってある程度演舞場設置に前向きになっていけば、

金額は高くなくても、ご迷惑をおかけしたそれぞれの町内会などに世間一般的なお世話になったお礼をしてもいいと思うが、先に手を出して迷惑料を持ってこないとだめだと言うのは情けない。地元の人の中にもどうしてだと言っている人も多い。

- ・庄野委員を中心に飲食店街の人とも 1 枚岩になって協議していただかないと、紺屋町の復活が流れ、市役所前復活など色んな考えができる。スムーズに演舞場が設置できる方に行くと思うので、そのあたりは危惧するところがある。

(森浦委員)

- ・紺屋町演舞場については、一部の飲食店をされている方から来てほしいと言われていたが、検討を重ねた結果出来なかった。迷惑料について紺屋町と話がつかないのであれば、警察や県の観光協会、観光課に入っただき、方向を変えて以前踊る場所を設けていた秋田町の方もできないかと思う。一度検討していただきたい。

(山田委員)

- ・紺屋町の栈敷ができ、秋田町の交差点を通行止めすることで、秋田町のおどりロードができる。紺屋町の地元の理解が得られていない状況では通行止めもできないので秋田町のおどりロードもできない。

(弘田実行委員長代行)

- ・いただいたご意見を検討し、次回お答えできるものは回答させていただきます。

【閉会】